

# 令和5年度和光市下水道事業運営審議会 会議録

開催日	令和6年2月8日（木）
会場	市役所 6階 603会議室
開会時間	13時30分
閉会時間	14時30分

議 題	
1	令和4年度埼玉県和光市下水道事業決算の報告について
2	令和6年度和光市下水道事業会計予算について
3	その他

資 料	
1	令和4年度和光市下水道事業決算報告書（抜粋）
別紙1	令和4年度浸水対策工事
2	和光市下水道事業令和6年度予算概要
別紙2	ストックマネジメントについて

審議会委員		事務局	傍聴者
出席	欠席		
齋藤 利晃	浜口 武	上下水道部長 佐々木 一弘	な し
田崎 嘉之	今井 千津子	次長兼企業経営課長 前島 祐三	
藤田 則章		企業経営課調整幹 伊藤 英雄	
富澤 勝		下水道課長 柳下 博光	
近藤 やす子		下水道課課長補佐 森谷 栄一	
伊藤 友子		企業経営課課長補佐 矢萩 美和	
舩越 靖彦		企業経営課主事 今 夏美	
齊藤 登			

事務局	和光市下水道事業運営審議会条例第6条第2項に基づく会議成立の確認
	市民参加条例の規定に基づく会議の公開、会議録の公表、会議録作成のための録音の確認
	委員の委嘱
	市長挨拶
	自己紹介（事務局、委員）
	和光市下水道事業運営審議会条例第5条第1項に基づく会長及び副会長の選出（互選） → 会長は 齋藤利晃 委員に、副会長は 富澤勝 委員に決定

## 【議題1】 令和4年度和光市下水道事業決算の報告について資料1にて説明

事務局	令和4年度和光市下水道事業決算の概要について説明
	◆令和4年度和光市下水道事業報告書 業務量
	令和4年度3月末時点での水洗化人口は前年度比522人増の80,614人
	汚水処理量は前年度比22,904m <sup>3</sup> 増の8,639,088m <sup>3</sup>
	有収水量は前年度比77,990減の8,658,639m <sup>3</sup>
	◆経営・財務
	事業収益は1,082,879,624円（うち下水道使用料収入は前年度比0.05%増の604,590,530円）、事業費は970,811,023円となった
	純利益は112,068,601円
	◆経営指標に関する事項
	経営の健全性を示す経常収支比率は111.55%となり、健全経営の水準となる100%を上回っている。当市の下水道事業の運営は健全であると言える

	◆令和4年度の主な工事（浸水対策工事）について
	(1) 21谷中川雨水幹線整備工事（事業費：297,375,100円） 和光市の北側の北口駅前線付近の雨水浸水対策事業として令和2年から令和4年まで3年継続事業として実施した。和光市駅北口立体自転車駐車場付近から外環自動車道側道までの県道新倉蔭線の下に内径1500ミリの雨水管を約285m新設した工事
	(2) 22越戸川第16排水区整備工事（市道222号線）（事業費：89,490,500円） 和光市本町地内本田技研とCIハイツの間を通る道路、市道222号線に内径800mの雨水管を約300m新設した
	浸水対策工事について別紙1に沿って説明

【質疑応答】

問	下水道事業としては健全で、下水道使用料収入で賄えているという認識でよろしいか。
答	はい。

問	令和4年度の工事は雨水管の工事だが、汚水管の工事は行っているのか。
答	水洗化率が99%であるため、現在は和光市駅北口土地区画整理事業に特化し新しい汚水管の工事を行っている。

問	和光市の下水道管の維持管理の現状は？
答	毎年約3キロにわたり下水道管内部のカメラ調査を行い、調査結果に基づき根の除去や劣化部分の補修している。

問	現在の下水道使用料収入で賄えるように工事を行っているとは思いますが、（仮に必要な工事を）後回しにしてしまった場合、将来的に出費がかさみ下水道使用料が大幅に増額してしまうということはあるのか。
答	後ほど説明する令和6年度予算に関する内容で、ストックマネジメント計画というものがあり、その計画に基づいて計画的に維持管理していくことを考えている。

問	汚物が流れると硫化水素が発生し、管の腐食が進み劣化していくと思うが、和光市は大丈夫なのか。
答	和光市は平成9年からカメラ調査を行っている。その中で硫化水素等で管内の腐食等が見受けられた場合、部分的なものは補修、全体的に腐食が進んでいるものは管路の更生工事ということで、内面に樹脂を貼って新しく汚水管としての役割を持たせるような工事を行っている。

問	管の更生について、相当費用が掛かるものだと認識しているが、管が大きくなれば費用も増加すると思う。和光市では大きな幹線を抱えているのか。
答	幹線はおよそ44キロで、その中でカメラ調査を重点的にやっているのが250ミリほどの小さい径の枝線である。大きな幹線については先ほどのストックマネジメント計画で計画的に行っていくことを考えている。

問	ストックマネジメント計画に沿っていけば現行の下水道使用料で賄えるということか。
答	計画に沿って現行の下水道使用料で賄えるよう工事を行っていきたいと考えている。
	議題(2)に入る前にストックマネジメント計画について先に説明を行う。

ストックマネジメント計画について

事務局	資料（別紙2）に沿って説明
	和光市の下水道管渠の総延長は約130キロあるが法定耐用年数は50年であり、管路は老朽化も進行していることから、今後耐用年数を超えてしまう管が加速的に増加することが見込まれている。経過年数が浅い管でも別紙2の写真のとおり、老朽化が進んで地下水が入り込んでしまったり、腐食してしまったりしている管が複数ある。このような管路が発生しないように計画的に補修を実施して、施設の状態を維持することが必要になる。このような取り組みをストックマネジメントという。この取り組みを令和6年度から策定する。
	上記内容に補足説明

<p>現在、古い管が埋まっているので今後劣化して、別紙2棒グラフの昭和57年以前に敷設された管が、今後10年で法定耐用年数を超えるため、これらを補修、布設替えしていくので今後費用がかかっていくことになる。 この費用を現在の下水道使用料で賄えるのか、ということが先ほどの議題1での委員の質問である。 このストックマネジメント計画は令和6年度以降行くと予定されているが、現状はこのままの使用料収入で賄えるような計画を作っていくと考えているということである。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【質疑応答】

問	能登半島の地震により、被災地では水道が何日も止まっていると報道されていたが、和光市は災害時の対策はどのように行うのか。
答	和光市で懸念されるのは液状化や人孔の持ち上がり等である。 下水道は地形の勾配を利用した自然流下式であるが、勾配が取れなくなると汚水が詰まってしまう。これを防ぐために平成29年度に耐震化計画を策定し、耐震対策工事を平成30年度から行い、計画に基づいた工事を行っている。

【議題2】令和6年度和光市下水道事業会計予算について

事務局	令和6年度和光市下水道事業会計予算について資料2にて説明。
	◆ 令和6年度予算
	予定される事業収入は1,157,478,000円。事業費は1,145,403,000円 純利益は12,075,000円を見込んでいる
	◆ 主な工事
	(1) 新倉小下マンホールポンプ更新工事
	(2) 牛房通りマンホールポンプ更新工事制御盤更新工事
	本来自然流下させるが、地形によりうまく排水できないところはマンホールポンプを用いて汚水を汲み上げて流す必要がある。そのポンプ及び制御盤の更新工事である
	◆ 令和6年度予定事業について
	(1) 和光市下水道全体計画修正等業務委託
	(2) 和光市下水道全体計画修正等業務委託和光市下水道事業ストックマネジメント計画及び経営戦略策定業務委託
(3) 中央第1号線汚水幹線他現況能力確認及び対策方法検討業務委託	

【質疑応答】

問	予算の収益は約11億、決算では約10億8千万ほどで、6000万以上の差があるが、人口が急激に増える予測があるわけではないと思うので、何による収入の増加を見込んだ予算なのか。
答	水洗化人口は増加傾向にあり、それをもって試算をしたところ使用料収入の増加が見込まれ、収益増加の一因となっている。 決算額は実際の金額、予算額は見込み額であるため、決算額と予算額を比較すると大幅に増えているように見える。
問	人口が増えているのは認識しているが、それで6000万以上も収入が増えるのか。 基本料金で上下水合計で3,000円ほどだが、仮に一人の上下水の合計料金が10,000円と見込んでもかなり多いと思う。
答	令和5年度の決算値が確定した時点で令和4年度の決算値と比較するとそれほど大きな差は出ないと考える。

問	収入には下水道使用料収入があるが、雨水の整備に関しては国からの補助金など、使用料収入以外の財源があるかと思うが、その財源について教えていただきたい。
答	市民の皆様からの下水道使用料収入と一般会計からの繰入金があり、そちらを財源としている。汚水については下水道使用料収入、雨水に関しては一般会計からの繰入金を活用し事業費としており、汚水と雨水は別の財源を活用している。

補足	汚水に関しては、受益者負担という考え方で、汚水を排出した方がその分の金額を支払うということになっている。雨水に関しては、下水を使っている人も使っていない人も幅広く雨水への対策を行う必要があるということで一般会計からの繰入金を活用している。
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

問	建物を新設する際に、雨水の流出抑制を所有者が行うことはあるのか。例えば、横浜は調整池が多くあるが和光市はそこまで多いわけではないと思うので。
---	------------------------------------------------------------------------

答	戸建て住宅については宅内で処理していただくようお願いをしている。 集合住宅など、開発行為については浸透トレンチ等を設けて雨水対策をしていただいている。
---	--------------------------------------------------------------------------------

問	雨の日に駅前通りからセブンイレブンまで通るとかなり水が流れているが、民地から流れ出ていたり、空き地から流れていたりするので、そのような場合は敷地の方に処理してもらうなどお願いはできないのか。
---	-------------------------------------------------------------------------------------------------

答	個別に指導はしていない。
---	--------------

問	和光市は今後も人口が増えていき、団地も新しくなっておりさらに人が増えていくと思うが、雨水の流出が多い駅付近のメイン通りに対し雨水の流出対策を審議するなど大きな場を作ることはできないのか。
---	-----------------------------------------------------------------------------------------------

答	市内で浸水被害のあった場所や、雨水については下流側から対策しているところである。現在区画整理事業が行われており、雨水抑制対策を取っている。
---	-----------------------------------------------------------------------

補足	雨水に関しては、計画上の50ミリや55ミリという降雨量よりも多い数値が観測されているため、計画通りに工事を進めれば浸水を完全に防げるということではないが、計画を覆すということはないが、よりよい方法を検討していく。 理化学研究所は27万㎡という広い敷地の中で雨水の対策を取っている。新しく土地を開発する際は自分たちで調整池を作るなどして自前で対策している部分もある。
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【議題2】 その他

事務局	令和6年度の審議会について、経営戦略に関する内容を予定している。
-----	----------------------------------

和光市下水道事業審議における会議録について相違ないことを証明するため、会議録署名委員としてここに署名する。

会議録署名委員	印
会議録署名委員	印